

期 中 の 評 価 個 表

事業名	緑資源幹線林道事業	事業計画期間	平成6年度～平成25年度
事業実施地区名 (着工中区間) (都道府県名)	置戸・阿寒線 (足寄・阿寒区間) (北海道)	事業実施主体	独立行政法人緑資源機構
事業の概要・目的	豊富な森林資源に恵まれた地域において、基幹的な林道を整備し、林業を中心とした地域振興を図る。 延長71.0kmのうち 足寄・阿寒区間の延長41.9km、幅員7.0m		
① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	足寄・阿寒区間について費用対効果分析を試行した結果は、以下のとおりである。 総便益(B) 25,241百万円 総費用(C) 18,174百万円 分析結果(B/C) 1.39		
② 森林・林業情勢、農山漁村の状況その他の社会経済情勢の変化	関係町の森林の66%が国有林であり、人工林率は24%である。また、受益地は97%が国有林であり、人工林率は24%である。 受益地では前回の評価時にくらべて更新の施業量及び素材生産量が増加しており、今後、更新及び間伐の施業量が増加する見込みである。 受益地の天然林では、受光伐などの複層林施業が行われている。 本区間により間伐期に達している人工林の施業や天然林における複層林施業の効率的な実施に利用されることが期待される。 本区間周辺の林産加工施設は足寄町の中心部に位置している。また、本区間は陸別町で生産された製品の輸送ルートとしても機能することが期待される。 本区間は、その北にあるオンネトー湖と、釧路市方面のアクセス道の一部として機能することが期待される。 本区間により沿線の集落から地域の主要都市である釧路市方面への距離が短縮される。 森林開発公団（現緑資源機構）が実施した調査において、路線の一部でクマゲラの鳴き声等が確認されている地区があり、緑資源機構はこの地区での工事の実施に際しては適切な措置を講じることとしている。 また、北海道及び白糠町の把握している範囲の情報では、受益地外において貴重動植物の生息の情報を得ている。		
③ 事業の進捗状況	進捗率14% うち足寄・阿寒区間 進捗率24% 周囲の景観との調和を図るために緑化工に郷土種の本木種子を混入している。		
④ 関連事業の整備状況	整備後は公道を補完し、森林地域における交通ネットワークの形成に寄与することが期待される。		
⑤ 地元（受益者、地方公共団体等）の意向	森林整備による森林の多面的機能の高度発揮はもとより、林業経営コストの縮減等、木材産業など地場産業の振興に寄与するだけでなく、陸別・足寄地区から釧路圏への距離短縮が図られ、農産物輸送等への活用、周辺公道の災害時の代替道路や観光ルートとして機能するなど地域住民の生活環境の改善等も期待され、必要なものであるとして北海道及び関係町は早期完成を要望している。		
⑥ 事業コスト縮減等の可能性	施工能力の高い切取工における32トンプルドーザなどの利用の積算への反映により、コスト縮減と工期の短縮を図っている。 鋼橋桁に塗装が不要な耐候性鋼を使用することにより、メンテナンスコストの縮減を図っている。		
⑦ 代替案の実現可能性	該当なし。		
第三者委員会の意見	森林の有する多面的機能の発揮、林業・林産業の活動の見通し、地域振興への貢献度等を総合的に検討した結果、事業を継続することが適当と考える。 なお、事業の実施に当たっては、隣接地域での貴重動植物の情報を収集しつつ環境保全に配慮することが適当と考える。		
評価結果及び実施方針	・必要性： 豊富な森林資源を有しているものの、過疎化等の厳しい条件下にある地域であることから事業の必要性は認められる。 ・効率性： コスト縮減に努めているほか、費用対効果分析を試行した結果、費用以上の効果が見込まれることから、事業の効率性は認められる。 ・有効性： 森林・林業への寄与のほか、釧路市方面へのアクセス道の一部としても機能することが期待されることから、事業の有効性は認められる。 事業の実施方針： 着工中区間の足寄・阿寒区間については継続とし、隣接地域での貴重動植物の情報収集に基づき環境保全に配慮して事業を実施する。		

